

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 2

2015年7月1日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都市中京区西ノ京東梅尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

一緒に、進みましょう!

独居や高齢者世帯において、新たな疾病や突然の転倒により途端に生活そのものが危機的状況となり、医療の提供もままならないという経験を多くの先生方がされていると思います。私は、このような戸惑いや無力感の繰り返しで、この国で在宅医療という選択が果たして上手くいくのか、正直疑問に感じことがあります。

さて、先生方は突然の在宅ピンチを、どのようにして切り抜けておられますか？

選択肢①ひとまず入院や緊急ショートを頼み込み、状況を見ながら次の一手を考える

選択肢②遠くにいる家族に連絡して来てもらい、在宅の継続を試みる

選択肢③ケアマネジャーと訪問看護師と協力して何とか在宅で乗り切る 等々、

在宅チームと共にまた病院や施設の支援を受けながら、ケースごとにあれこれと可能性を探り、突然のピンチに先生方は大変苦労しながら対応されていると思います。

私は、今後、独居・高齢世帯数が増加することが明らかな状況で、「これ以上選択肢を狭めるような地域医療構想や計画はあり得ない」と強く言い続けると同時に、選択肢を確保するためには、在宅医療の対応力向上が非常に重要で不可欠であると考えます。

私は、自分が患者になった時のことをふと考えことがあります。「がんとの闘いの中、できるだけ自宅で過ごす時間が欲しい!」「もういいです、自宅にいたいんです!!」。もしもこのような希望や決断に応じてくれる在宅医療、訪問してくれる医師がいなければ、私の悲しみ、苦しみはとても深いものになるでしょう。

老いや死に対する備えが後手に回ってしまったこの国で、皆で考え、乗り切ろうというのが「地域包括ケア」と私は考えています。冒頭の疑問を忘れることなく、多様な選択肢を確保しなければならないと考えますが、在宅医療が「地域包括ケア」の大きな柱であることは間違いないありません。

在宅医療の対応力向上、そして京都府の地域包括ケアの支援を目的として本センターは設立されました。地区医師会や関係する皆様と十分に議論し、可能な限りのサポートを行って参りますので、先生方の地域包括ケア、在宅医療へのこれまで以上の参加をお願い申し上げます。

京都府医師会 副会長 北川 靖

